

R5年度足羽福祉社会事業報告

令和5年度は、国際的な不安定さが増す一方で、国内では新型コロナウイルスが感染症法上の5類に移行し、また北陸新幹線の敦賀までの延伸が実現したこともあり、賑やかで活気ある社会への期待感が増した1年でした。当法人としては、新たに第Ⅴ期中期事業計画を策定した1年目でもありました。その前年度にSDGs宣言をした私たちは、事業方針でもある「利用者様と共に」「地域と共に」「職員と共に」「地球と共に」を加え、3年後のありたい姿として、以下の目標を立てました。

1. 利用者様と共に 一人ひとりの夢や願いを実現するために、連携のもとで様々なチャレンジがなされており、成功事例がたくさんある。
2. 地域と共に 地域の課題に対して協働して取り組み、地域からなくてはならないパートナーとして認識されている。
3. 職員と共に 働きがいと働きやすさの実現により、ここがよかった！と実感できている。
4. 地球と共に CO2排出の削減が進み、循環型事業モデルに取り組んでいる。
5. 経営基盤の安定化 さまざまな経営改善の取り組みにより、持続可能な収支差額が計上できている。

しがしながら、感染症が全くなかった訳でもなく、次の一步を踏み出すには、逡巡と勇気が必要な1年でもありました。慢性的な人手不足で、職場内コミュニケーションがとりづらく、よりよい組織作りに取り組む中での大きな壁にも直面しました。

隣の石川県をはじめとする能登半島地震では、福祉施設や地域社会が甚大な損害を被りましたが、物的人的な支援を通して、改めてつながりと本質をとらえることの大切さを学びました。

人が生きていく上で、それを支えていく上で、本当に必要なことは何なのか？ 先の読めない、困難な時代であっても、私たちは歩を止めてはなりません。私たちのパーパス、ミッション、バリューの理解と行動が問われています。できたことも、できなかったことも真摯に受け止めて、次年度につなげていきます。

5つの視点	3年後の姿 (目指す状態像)	R5年度事業計画	R5年度事業活動報告		主な指標
利用者様と共に	一人ひとりの夢や願いを実現するために、連携のもとで様々なチャレンジがなされ、たくさんの成功事例ができています。	① 尊厳・権利擁護はじめ本人中心の福祉に関する学びを深める。	一部達成	障がい者福祉部門や高齢者福祉部門ではEラーニングによる研修体制を活用し、また虐待防止委員会等による自己チェックを行いながら、本人の権利擁護、虐待防止、意思決定支援等の学びに取り組んだ。	事故報告；499件、 苦情受付；36件
		② 一人ひとりの想いや願いの適切なアセスメント（着手、見直し）	一部達成	障がい者福祉部門ではEラーニングにの研修を活かしながら、本人をより深く理解するためのアセスメント見直しに取り組み、高齢者福祉部門では、アセスメントシートとケアプランは十分に組み立てているが、支援統一の課題に直面している。子ども福祉部門では、事業所間の交流を通して子どものよりよい育ちの環境作りに取り組んだ。	
		③ 実現のための話し合いを関係者、チームで取り組む。	一部達成	各拠点、一人ひとりの人生における様々な局面や地域で起きている諸課題に対して、関係者によるケース会議を行いながら、チーム支援で取り組んだ。その取り組みの一部をサービス実践報告会にて11事例を報告、全体共有を行った（来場約130名）。	生活困窮者支援；3件
地域と共に	地域の課題に対して協働して取り組み、地域からなくてはならないパートナーとして認識されている。	① 関係者（地域住民、学生、研究機関等）を増やし、継続的な話し合を通じた地域課題の共有。	一部達成	子ども福祉部門では、地域での会議や交流イベントに積極的に参加した。障がい者福祉部門では、ポッチャ交流、在宅高齢者世帯への配食サービス、地域清掃活動など取り組んだ。高齢者福祉部門では、地域包括ケアを推進する様々な取り組みに参画した。法人本部でも、県内大学と連携した活動、また第10回足羽川ふれあいマラソン大会を開催した（ランナー約1,153組参加、ボランティア約356名参加）。	施設見学受入れ；357名、 施設実習受入れ；200名、 施設ボランティア受入れ；343名
		② 地域住民の目線で課題解決に向けた取り組み。	一部達成	障がい者福祉部門では、永平寺町における福祉のまちづくり事業について、地域関係者や大学等との連携によるプロジェクトチームを発足させ、先進地視察等の活動を行った。高齢者福祉部門ではデイホームや認知症カフェ、地域関係者との継続的な話し合い等を通して、地域ニーズにどのように応えていけるか検討を進めた。	
		③ 災害時における法人の役割（福祉避難所設置、DWAT派遣等）を発揮できる体制整備。	一部達成	各拠点の災害時BCPIは年度内に作成したが、法人全体での連携等十分な議論を進めることができなかった。福祉避難所としての役割割りについては、地域住民との話し合いを進めながら、連携強化に努めた。R6年1月に起きた能登半島地震では、福井DWATを始め、主に介護、障がい者団体を通じた被災地支援の活動に積極的に人的派遣を行った。	被災地職員派遣； 延べ39 名 延べ115 日
職員と共に	働きがいと働きやすさの実現により、ここがよかった！と実感できている。	① 確保：ブランディング推進のもと、法人に共感する人材の確保。	一部達成	法人のパーパス、ミッション、ビジョンをきちんと伝えての採用活動を通して、R6春卒学生6名の採用となった。また中途採用強化のための紹介制度「リファラル採用」を作り、年度内5名の採用につなげた。高齢者福祉部門では実習受入れの印象度アップのためのマニュアル見直しを行った。介護人材確保のためには外国人留学生やEPA介護福祉士候補者の受入れも積極的に行った。	年間採用者数；51名 年間退職者数；64名 外国人労働者数；14名
		② 育成：法人研修プログラム等を定着させ、学びやサービスクリティ、改善意欲の向上。	一部達成	法人研修をWEB受講による基礎研修と、選択による自主性を高める専門研修に分けて計画的な人材育成を行った。しかし事業所によって、人員不足などを原因とした研修参加へのバラツキが見られた。また1on1面接を推奨し、上司による部下育成やフォロー体制強化に取り組んだが、定期的な面談が定着した事業所と、実施が困難な事業所の差が出ている状況。	法人研修年間受講者数；延べ2,044名 女性管理職数；16人（45.7%）
		③ 定着：職員満足度調査などを基にした職場環境、業務効率の改善（ICT・介護ロボ等活用、経営ガバナンス強化など）。	一部達成	グループウェア導入後、スケジュール管理や情報共有などペーパーレス化も一定進んでいるが、活用スキルにおける個人差もあるため、業務改善研修数を増やして対応した。また支援現場でも支援記録ソフトの見直しや見守りシステム等の導入によって、職員の負担軽減に取り組んだ。ストレスチェックや職員満足度調査では、前年度から大きな変化はなく、「業務過多」だが「職員同士や上司のフォローは高い」結果となった。L☆会では、子ども福祉部門と協力して親子での体操サロンを企画実施した。	年間超過勤務時間；34,573時間（5.1H/人） 年間有休取得日数；4983.5日（8.6日/人）
地球と共に	CO2排出の削減が進み、循環型事業モデルに取り組んでいる。	① 法人内電球の全LED化。	一部達成	各拠点において一部を除き、LEDへの切り替え工事を行った。あすわ第2のGHこもれびでは太陽光発電を導入し、CO2排出減の見える化に取り組んだ。しかし法人全体でのCO2排出量算出の「見える化」を進められなかった。	
		② 新たな車両はEVまたはHV車を導入。	一部達成	公用車乗り換えの際にEV車1台、HV車2台を導入した。また車両全体の維持管理における業務負担軽減のため、リース車両への切り替えを行った。	
		③ 有機廃棄物の堆肥化に向けた取り組み。	一部達成	足羽サポートセンターによる農福事業への取り組みを本格化させ、足羽ワークセンターからの有機廃棄物による堆肥作りを少量ながら始めた。各拠点ごとに、SDGsへの関心を高める取り組みを検討したり実施したりしたが、子ども福祉部門では、子ども自らが体験できる様々な機会を創出すると共に、取り組みをSNS等で積極的に発信した。	堆肥化した有機廃棄物量；1

【 法 人 本 部 】

5つの視点	年度目標	最終報告		KPI指標(年)	活動実績(年)				
利用 者 様 と 共 に	(1) 現場理解を目的に尊厳・権利擁護はじめ本人中心の福祉を学習する	未達成	本部職員が現場を理解するための研修の場として、障がい者福祉部門のWEB研修を活用する予定であったが、実施できなかった。	部門の研修会への参加数 ① 0回 (未実施) 「愛道」発刊 ② 2回 (達成) 法人連携事例検討会 ③ 0回 ①「思い」「アニュアルレポート2022」発刊完了 (1回) HP更新 随時	感染症	<新型コロナ感染者数> 職員3名 <インフルエンザ感染者数> 0名			
					事故	<事故> なし <ヒヤリ> なし			
	(2)福祉環境の把握や支援の創発を目的に、部門を超えた組織横断交流施策の企画を行う	一部達成	一般参加型のサービス実践報告会を福井県立大学にて開催し、部門での取組みについて発表を行い、11事例の発表を行った(130名の参加)。 また、福井放送(株)にて法人CMを継続的に放送し、ホームページのフォロー数(放送前)600人から(放送後)811人に増加し、広告も一度は見た方は、放送前は500名程度であった数値が、87,708人に大幅に向上した。 生活困窮者への経済的援助は、大東包括、リアン及び福井市と連携をとり、3件(計約90,000円)を実施した。		苦情	苦情…0件 要望… 0件			
	(3)部門事例(支援、研修、その他取り組み)の社内広報を行う	達成	新年度に制定された、又は変更された規程の説明や委員会活動の報告を、社内広報誌「てとて」に掲載して周知した。ホームページについては令和6年度早々に更新する。		虐待防止	0件			
					その他				
地域 と 共 に	(1) 地域における福祉教育計画を設計する	一部達成	設計にあたり、他法人の活動について協力していただき、視察を行い、福祉教育の件だけではなく、採用や外国人介護士の育成などについての情報交換も行った。更に、福井大学とのSDGs施策の共同企画、課題解決型学習も実施した。また、県立大学と連携し学生向けに「福祉のまちづくりと職業選択肢としての福祉」をテーマに特別講義を実施した。 大東包括や公民館との連携により地域における研修、勉強会については、立案に至らなかった。		受入実績	見学	0名、 0団体		
	(2) 災害時における法人と本部の役割を定義し体制を構築する	一部達成	法人のBCP委員会を中心に、災害対応について各拠点のBCPを確認したが、1月の能登半島地震発生により、法人本部の役割、参集ルール、備蓄品の管理等を再確認、再検討した。来年度も継続的に行う。 合同避難訓練については、足羽ワークセンター、足羽利生苑との訓練は実施し、また、通信訓練も行ったが、課題については継続的に対応していく。			ボランティア	353名(足羽川ふれあいマラソン)		
	(2) ボランティア育成事業のあり方について、事務局として検討・提案を行う	一部達成	事業として、第10回足羽川ふれあいマラソンは11/19に実施(ランナーエントリー1,153組(1,368名)、ボランティアは367名(中高生181名)の参加があった。各拠点のボランティア活動については、5月(コロナ2類への移行)以降は、夏祭りの開催等、施設行事等で行われるようになった。 現在、足羽川ふれあいマラソンを主に活動しているが、公民館をはじめ地域の方々からの開催要望は強く、ボランティアのリピーターも多い。その反面、法人の取り組みとして、職員が多忙な中、また、公益事業としても収支が合わず、事業内容として継続的に検討する必要があるが、その検討は行うことができなかった。			実習	0名、 0団体		
					その他	能登半島地震関連(派遣) 28名(12拠点)のべ派遣日数98日 足羽川清掃活動 参加 職員 17名 利用者様 11名 職員研修センター活用(地域の方)のべ 31回(2団体)			
職員 と 共 に	(1) 法人に共感する人材確保に向けたブランディング推進と採用計画の運用を行う	一部達成	ブランディングについては、職員への浸透及び地域の方々の周知のために、封筒、名刺等のツールについて製作し年度当初より、活用を始めた。更に、研修会や説明会も実施したが、現在、職員への浸透度が低い状況であり、今後も、周知を実施していく。また、来年度の卒入職者実績は6名(こども2名、障がい3名、高齢1名)であった。	①職員会議等でのパーバス唱和12回 パーバス研修0回 新卒採用6名/目標23名 ②研修企画会議12回	労務管理実績 人事管理	超勤300H超	法人本部 1名(427.83時間)		
	(2) 職員の要望に応える研修のコンテンツや体系づくりなど、タレントマネジメント構築に着手する	一部達成	タレントマネジメントに向けた、職員個人の研修受講履歴について、不完全な状況であったが、人事台帳へ登録する仕組みを構築することができた。しかしながら、グループウェアを利用した研修等の復命書の決裁、回覧のワークフローとの連携ができないため、復命書の提出方法等の再考が必要である。 令和5年度研修体系を踏まえて、研修会議を毎月計12回実施した。			メンタルヘルス	法人本部 なし 法人全体 職場復帰委員会 対象職員 7名		
	(3) PC配置の適正化などICTインフラと対内外セキュリティを強化する	達成	介護や支援補助に係る機器のPC導入だけではなく、職員間の情報共有、在宅勤務のための導入に向けたインフラの拡充も拠点も含めて完了した。本部において、在宅勤務を勤務形態に加え実行し、検証を行った。それを踏まえての、在宅勤務規程等 個人情報に係る規程を改正した。 今後を見据えたロボティック・プロセス・オートメーション(RPA、事業プロセス自動化技術)について、エントランスディスプレイ、消耗品発注など簡易なルーチン業務に次年度より適用させていく予定である。			採用	法人本部 なし 法人全体 51名 正規職員 32名 パートタイム職員18名 シニアジョブ職員1名		
					退職	法人本部 正規職員1名 法人全体 64名 正規職員 44名 パートタイム職員18名 シニアジョブ職員2名			
					その他				
地球 と 共 に	(1) 法人内電球の全LED化を行う	一部達成	法人本部におけるライトのLED化については完了した。 法人SDG's 推進会議で、太陽光発電の有効性は確認できたが、導入計画までは至らなかった			設備投資状況	※記載事項なし		

【こども福祉部門】 【啓明児童クラブ】

5つの視点	年度目標	最終報告		KPI指標(年)			
利用者様と共に	(1) 子どもの権利についての学びを深める	達成	出勤時、前日の児童の様子を引き継ぎし、特に気がかり児童に対して統一した支援の徹底により、安全・安心して周りの児童達と協調しながら落ち着いた活動を導く支援につなげることが出来た。	1人当たりの受講時間/30分目標	感染症 3名	<新型コロナ感染者数> 職員0名、利用者様0名 <インフルエンザ感染者数> 職員0名 利用者様3名 <その他の感染症感染者数> <事故> 1件 <ヒヤリ>	
	(2) 合同のイベントや各拠点の様々な取組みを通して連携を深め、交流を進める	達成	上文殊児童クラブとの合同会議を年3回行い、初回会議で交流企画を提案した。夏休み期間中に「モルック」というニュースポーツの体験とドッチビーでの交流、また、10月の秋休み中にはハロウィーン交流を美山地区で行い、児童たちの声や交流の様子から、更なる企画の拡大充実に向けて、令和6年度につなげていくこととした。	連携して取り組む事業への参加利用者様実数/一人1以上目標	苦情・要望 0件	特になく通年運営できた 苦情…0件 要望…0件	
					虐待防止 0件	記載事項なし	
					その他	上文殊児童クラブとの合同会議 ・6/29 ・9/13 ・12/20	
地域と共に	(1) 地域の課題について話し合う場に出向き、招くを通して地域ニーズを把握する	達成	8月2日に行った公民館との共催行事である「モルック体験会」では上文殊児童クラブの児童達とともに、外部講師からルールをおしえていただき、貴重な体験交流を持つことが出来ました。午後にはその後上文殊児童クラブの児童達とドッチビー交流し、楽しい1日を送ることが出来ました。8月18日のシャボン玉七変化でも、シャボン玉のしくみと気体の性質を実験を通して学びながら地域の方々との交流を持つことが出来ました。	ニーズ対応(人)の実数/10人以上目標	受入実績 見学0件 ボランティア 0件	記載事項なし	
	(2) 子育て支援セミナー等子育て世代や家族に向けた情報発信をする	一部達成	啓明小学校、羽生小学校及び保護者にお便りを配布し児童クラブの様子をお便りを通して発信した。 また、各団体が開催する子育て関連のイベントチラシなどは児童クラブホワイトボード掲載し保護者に周知したがホームページの写真は定期的な更新が出来なかった。	企画メニュー数/1個以上目標	実習 0件	記載事項なし	
	(3) サービス外の在宅児や家族へのサポートを柔軟に取り組む	達成	公民館行事の「モルック教室」と「シャボン玉七変化」の体験時に児童と共に職員もスタッフとして地域行事運営に参画した。また、10月下旬に行われた「美山文化祭」にも児童達の作品を出展し、地域の方々に児童クラブの活動を周知することが出来た。	イベントの把握/50%以上参画目標	その他	令和5年度はコロナも通常感染の位置づけとなり、これを受けて地域との交流活動をコロナ以前に近づけるような取り組みで子供たちの地域交流を支援することが出来た。	
職員と共に	(1) 法人研修プログラムを始め、個々の専門性や人間力を高める研修等への主体的な参加を促進する	達成	法人研修プログラムのEラーニング受講は1月、2月に受講したが、駆け込みめであり次年度には計画的研修に努めたい。今年度計画の「放課後児童支援員認定資格研修」に1名受講し(12月7,8,12,13日の計4日間)基準配置の適切性を高めた。	Eラーニング受講率/100%目標	労務管理実績	超勤300H超	年間63.41H 超勤300H 該当職員なし 有取得日数給26日 時間有給32H
	(2) 人間関係を良好に進めるための接遇やコミュニケーション技術を習得および向上させる	一部達成	職員同士での話し合いを継続して行っているが接遇力の向上につながっているか否か、明確にわからない部分もあるので、Eラーニング等活用しながらPDCAを回して行く。	1on1の実施回数/月1回目標	人事管理	採用 退職	該当職員なし 指導員1名 運転手1名
					その他		
地球と共に	(1) 職員が学び、話し合っ、自ら取り組む	一部達成	昨年度行った自前講座が今年度は実施できなかった。ゴミ分別については児童たちと共に日々意識をもって行うことが出来ている。	SDGs出前古座回数/年2回目標	設備投資状況		
	(2) 子どもたちが自ら体験できる機会を作る(環境教育)	達成	廃材工作は児童達が大好きで、一週間続けて作品作りに取り掛かる児童の姿も見られた。 広告利用の紙飛行機づくりでは、紙質で飛び方が全然違う事がわかり、みなで紙飛行機飛ばしをして遊ぶことが出来た。	空箱、脱ブラの取組み実績/1以上	その他		
	(3) 子どもたちや事業所のSDGsへの取り組みを発信する	一部達成	各家庭で実際行われているSDGsを紹介するため、とりまとめて児童クラブ便りに掲載することが出来た。 その後も児童クラブで取組める事を継続して行ったが広報につなぐ事が出来なかった。	ホームページ発信回数/1以上目標			
経営基盤の安定化	(1) 利用者様や職員から選ばれる事業所となるよう、本部との連携強化でブランディングを推進する	未達成	満足度アンケートは未実施にとどまった。	満足度アンケート/満足度100%目標	A 定員(人)	40人	
					B 利用者延べ人数/年(人)	7,260人	
	(2) 適正な人員配置・組織体制を構築する	達成	「美山の児童達は美山の大人で」を根底において、美山地区の人を介した人員配置ひ留意した。夏休みアルバイトは法人職員の伝手で2名配置し対応した。日常の送迎や支援の配置困難時は母体施設の兼務職員がカバーすることで安全・安心の運営を行った。	勤務表作成時の確認/勤務実績2名以上確認目標	C 稼働日数(日)	241日	
					D 平均利用者数(B/C)(人)	30,12人	
	(3) それぞれの拠点の経営課題に対して、法人本部と連携しながら優先順位の高いものから取り組む。	達成	予算執行は過度の余剰や不足とならないように適切な収支バランスで運営し、福井市からの委託事業として基準に沿った財務運営を心がけた。 【当初予算対比】 当初人数より4名退会 延べ利用者数 88.6% 平均利用者数 89.5% 補助金 100% 利用料 94.55% 人件費 98.97% 事業費 97.87% 事務費 107.45% 未収金 利用者 256,400円 2月未回収12,000(5/1回収) 3月利用分244,400円	予算対比実績稼働率の把握/予算執行率95%以上目標	E 稼働率(D/A×100)(%)	75,31%	
					その他(未収、未払の状況)	業者未払金 115,830円 未収金 利用者 3月分244,400円	

